

8/15 戦後史の編集がスタート 町史編集委員・専門部会委員の委嘱状交付

町史編集委員の任期満了と『図説編 戦後のあゆみ』発刊に向けた専門部会発足に伴い、町史編集委員（任期2年）と専門部会委員（発刊まで）の委嘱状を交付しました。町史編集委員会は、町史編集の基本計画について調査・審議し、答申する役割を担います。専門部会は『図説編 戦後のあゆみ』の編集刊行計画案や資料収集、調査研究などを行います。

互選により、波平エリ子氏が町史編集委員長および専門部会長に選出されました。第1回編集委員会・専門部会は合同で開催し、編集方針や項目案を審議しました。委員は下表の通りです。

町史編集委員		専門部会	
名 前	所属など	名 前	所属など
上原 忠	学識経験者	上原 丈二	町社会教育委員
崎原 恒新	町文化財保護審議委員	崎原 恒新	町文化財保護審議委員
波平 エリ子	沖縄国際大学大学院	城間 義勝	沖縄国際大学
山内 敏春	学識経験者	鳥山 淳	琉球大学
		波平 エリ子	沖縄国際大学大学院



前列：左2番目より上原丈二委員（副部会長）・左4番目より波平エリ子委員（委員長、部会長）、山内敏春委員（副委員長）、後列：左2番目より城間義勝委員、鳥山淳委員、上原忠委員、崎原恒新委員



8/22 記念切符を贈呈 軽便駅舎の入館者7万人に

沖縄戦で失われた県営鉄道と那原駅舎を再現した「軽便と那原駅舎展示資料館」の入館者が7万人を達成しました。

7万人目となったのは北中城村の児童デイサービス「しあわせ駅」の子どもたち。セレモニーでは町長より特大の記念切符パネルと駅舎グッズ、手作りの制帽が贈られました。町長は「今年は戦後80年という節目の年。平和の象徴として復元したこの資料館で、平和の尊さをかみしめ、かつて沖縄で鉄道が走っていたことに思いをはせてほしい」と述べました。



8/24 第15回ゆかた祭り in 与那古浜 1万人が夏の風物詩を満喫！

与那古浜公園で「第15回ゆかた祭り」(与那原地区社交飲食業組合主催)が開催され、のべ約1万人が来場しました。

会場はゆかたや甚平姿の人々で華やぎ、ステージでは恒例のゆかたコンテストや音楽ライブ、ショーなどが繰り広げられました。飲食やゲームの屋台も並び、訪れた人は夏のひとときを満喫しました。ラストには打ち上げ花火が上がり、華やかな光と音が与那原の夜空を染めました。



8/8 網をアクセサリにリメイク 「網girl」が大綱曳を応援！

与那原大綱曳の綱がすてきなアクセサリになりました！上与那原区の有志「網girl」が、昨年の与那原大綱曳の手綱を使ったイヤリングやピアス、ブローチを制作・販売し、その売り上げの一部を与那原大綱曳実行委員会へ寄付しました。

綱の消毒、編み直しまで手作業で丁寧に行われていて、西と東を象徴する赤と紫の糸がアクセントになっています。現在、軽便と那原駅舎展示資料館にて販売中です。与那原大綱曳への愛あふれる商品をぜひご覧ください！



8/20 台湾と与那原の中学生たちが 言葉の壁を超えて交流

与那原中学校ソフトテニス部と、夏の合宿で来沖していた台湾・新竹県立成功中学校ソフトテニス部の生徒たちが交流イベントを行いました。

自己紹介の後、4～5人の与中と台湾の混合グループに分かれ、9つのゲームに挑戦。体育館や図書館、保健室などをめぐり、ゲームをクリアするごとに文字カードがもらえ、全部集めるとあるメッセージが完成する仕組みです。最初は少し緊張していた生徒たちも、解き進めるにつれ、英語、日本語、中国語で会話したり、ジェスチャーで伝えたりと和やかな雰囲気。ゲーム後はプレゼント交換や記念撮影を楽しんでいました。クリア後のメッセージは今号の表紙写真の中にありますので探してみてくださいね♪



8/13 与那原町観光交流施設で合宿 ブラジル女子バレー代表が来町



バレーボール女子の世界ランキング2位の強豪、ブラジル代表がタイで開かれる世界選手権前の事前合宿で与那原を訪れました。

観光交流施設で開かれた歓迎セレモニーには、町関係者や町内小中学生のバレー部員など約80人が参加。照屋勉町長がポルトガル語であいさつをすると、選手たちからは驚きの声と笑顔がこぼれました。また、選手の皆さんにガチャガチャを楽しんでもらい、カプセルの中に入っていたつなひきかちゃんのストラップを贈呈しました。

合宿後の見送りの際は選手とハイタッチをしたり、サインをもらったりする子どもたちの姿もあり「一生の思い出」「シューズもう洗えない！」と喜んでいました。

8/14 図書館 夏休みイベントを開催 ペルーと韓国の絵本を読み聞かせ

町立図書館は夏休み期間中、沖縄県国際交流員でペルー出身のアラタ マキコさんと韓国出身のムン チェウォンさんによる出前事業「世界のこぼれおはなし会」を開催しました。2人は出身国の文化や生活についてスライドやゲームを用いて紹介した後、自国の絵本の読み聞かせを行いました。参加した子どもたちはゲームで盛り上がり、ペルー・韓国の楽器や衣装に触れたり、楽しく学び、異文化理解を広げることができました。

